

台湾における郷土言語の習得と使用に影響を与える要因 —嘉義県内 3 校の小学校高学年の児童を対象に

呉素汝 (大阪大学大学院生)

台湾では、「國民中小學校九年一貫課程(國民小中学校九年一貫カリキュラム)」の実施により、2001 年度から全台湾の小中学校において「国語(華語、以下同様)」、英語のほかに、「郷土言語」という名で総称された閩南(ピンナン)語、客家(ハッカ)語、原住民諸語などの言語教育が行われている。このように、台湾における学校教育のなかで、多言語教育が実施されるようになった。

郷土言語の履修に関しては、「國民小中学校九年一貫カリキュラム」の実施要点の規定には、「小学校では一学年から六学年のすべての児童は、閩南語、客家語、原住民語などの 3 つの郷土言語から任意に選択して履修しなければならない。中学校では生徒の希望で自由に選択して履修する」(教育部國民及學前教育署 2008、p13、引用者訳)と提示している。つまり、郷土言語は、小学校における一つの選択必修科目とし、中学校における一つの自由選択科目として設置されている。

しかしながら、郷土言語教育を小中学校に導入してから 10 年以上が経過したものの、年齢が下がるにつれて国語が多く使用されている(行政院主計總處 2012 ; 陳 2007)。このようなことから、郷土言語教育が「郷土言語の伝承」「エスニック文化の保存」といった 2 つの教育目標を今後達成できるかどうかについて疑問をもつ。

本研究は、2015 年 3 月に嘉義県 C 小学校、F 小学校および R 小学校の 5 学年の児童を対象に、彼らの郷土言語の習得と使用に注目したアンケート調査を実施したものである。研究課題は、1)郷土言語の習得態度と言語の使用状況を明らかにすること、2)郷土言語の習得に影響を与える要因を探ることである。その結果は以下のようにまとめられる。

- (1) 郷土言語の習得態度:郷土言語の授業を受講することが好きだと回答した児童は 65% おり、そして郷土言語の教科書の内容がおもしろいと回答した児童は 60%いる。両者の平均値がそれぞれ、3.70 と 3.65 であり、中等以上の程度の範囲である。このように、児童が郷土言語を習得する態度が肯定的であると考えられる。
- (2) 言語の使用状況: 100%の児童は家で国語を使用している。その中、70%の児童は家で閩南語をも話している。これに対して、学校において児童は国語を使用するのが 100%であり、閩南語を使用するのが 35%である。ただし、郷土言語の授業で閩南語の使用率(95%)が国語の使用率(35%)より高くなっている。このように、児童が閩南語を使用している場面は家庭内と郷土言語の授業中であるとわかる。
- (3) 郷土言語の習得に影響を与える要因: ①「郷土言語の授業デザイン」、②「同級生・

家族の態度」および③「家庭言語という役割を演じる郷土言語」である。まず、①に関しては、郷土言語の授業中、歌ったり DVD を見たり演劇をしたりし、また、児童の学習負担を下げるために宿題を出したり試験を行なったりしないからである。そして②に関しては、郷土言語の学習上に困難があったら、85%同級生・95%家族が教えてくれるという回答に示されている。③については、閩南語(郷土言語)が最も多用されている場面は家庭内であることから考えられる。

キーワード：郷土言語、習得、言語使用、授業デザイン、家庭言語

天理台湾学会 2